の成果が欧米諸国を中心に報告されているが，アジアからの報告は少ない．我々はアジア地域におけるIPEの現状と課題を明らかにするために，マレーシア，フィリピン，韓国，日本の医師養成校を対象にアンケート調査を行った．【方　法】 156医師養成校の学部長を対象に，IPEプログラムの有無と概要，そして学部長個人としてのチーム医療やIPEに対する態度を調査した．調査は世界保健機関と共同で行われた．【結　果】 35施設(22%) から回答が得られた．IPEプログラムが行われているのは6施設，うち5施設では看護学学生との共同プログラムが実施されていた．多くの学部長がチーム医療やIPEに対して肯定的態度を示したものの， 現状ではIPEプログラムを新たに導入することは難しいと回答した．また，IPEプログラムの導入には国際機関や経験のある施設からの協力が重要であることが示唆された．

29．群馬大学神経内科看護相談活動の初期的評価

猪熊　綾子，[1] 牛久保美津子，[2] 冨田千恵子[1]
市川　幸恵，[1] 横山　詞果，[2] 池田　将樹[3]
岡本　幸市[3]
（1　群馬大医・附属病院・患者支援センター）
（2　群馬大院・保・看護学）
（3　群馬大医・附属病院・神経内科）

【目　的】 神経内科看護相談は，群馬大学看護専門外来事業の1つとして，2010年9月より本格稼働している．主に筋萎縮性側索硬化症の患者や家族を対象に，神経内科医師の協力の下で，患者支援センター看護師と看護学教員が相談員として中心的活動を行い，病棟や外来看護師とともに協働運営をしている．活動目的は，療養相談のみならず，病棟と外来と地域支援者との連携を図り，切れ目のない支援の提供の実現化を助けることである．開設後約1年半が経過したので，連携状況，患者や家族の反応，スタッフの意見や感想を把握し，業務の質の向上をもたらすために今後の課題を抽出した．**【方　法】** 連携状況については関係者間による内省的検討，患者と家族からの反応については活動中に知り得た患者と家族からの生の声，スタッフの意見については，相談員4名に対し「職務満足ややりがい」「本相談活動がもたらす自己啓発やキャリア開発への効果」などを質問票でデータ収集した．**【結　果】** 1. 切れ目のない支援の実現に向けた効果：①院内・外関係者から依頼がくるようになった．②地域関係者から報告や相談がくるようになった．③病名告知場面に病棟看護師も同席し，病棟側と地域支援者の顔合わせや話し合いの場がもてるようになった，ほか．2. 患者や家族の反応：困ったことなど訪問看護師に話した内容が病院にも伝わっていて安心感が大きい，ほか．3. スタッフの意見：荷が重いと感じることがあるが，院外から評価をいただけてよかったと思っている．支援が必要な方に，タイムリーに支援を行える点はやりがいにつながると思う，ほか．**【考　察】** 以上より，本相談活動による効果は，3側面より経験的に実感できる状況である．さらなる活動の質の向上をはかるため，今後は，①嚥下障害に対して，摂食・嚥下の認定看護師との協働を検討する，②研究活動を平行していく，③外来で病名告知を受ける患者・家族への切れ目のない支援のあり方を検討する，などが課題と考える．

30．上の子を持つ経産婦の妻が満足と感じる夫の関わりにおける夫婦の認識

中島久美子，[1] 澤野沙耶香，[2] 國清　恭子[3]
荒井　洋子，[2] 立木　歌織，[3] 深澤　友子[3]
常盤　洋子[3]
（1　群馬パース大学保健科学部看護学科）
（2　群馬大医・附属病院・看護部）
（3　群馬大院・保・看護学）

【緒　言】 近年の核家族化や都市化に伴い家族関係の基盤である夫婦関係が重要視されている．しかしながら，出産後に夫婦関係満足度が低下するといった報告もあり，妻が満足と感じる夫の関わりについて夫婦の認識の違いを理解しない夫婦では，夫婦関係に支障を及ぼすことが懸念される．本研究の目的は，妊娠期にある上の子を持つ経産婦の妻が満足と感じる夫の関わりにおける夫婦の認識を明らかにすることである．**【方　法】** 対象は妊婦健診に来院した上の子を持つ経産婦の夫婦であった．調査期間は2009年7月～8月．調査内容は属性及び経産婦の妻が満足と感じる夫の関わりにおける夫婦の認識であった．面接は夫婦個別に半構成的面接法により収集し，分析はベレルソンの内容分析法を参考に行った．なお本調査は群馬大学大学院臨床研究倫理審査委員会の承認を得て行った．**【結　果】** 1. 属性：対象は第2子妊娠期及び第3子妊娠期の夫婦の2組であった．2. 経産婦の妻が満足と感じる夫の関わりにおける夫婦の認識は89記録単位が抽出された．そのうち，妻と夫の共通の認識は28記録単位，異なる認識は妻のみの認識41記録単位，夫のみの認識20記録単位が抽出された．これらの記録単位を分類した結果，〈胎児への親意識の高まり〉〈前回の妊娠・出産と子どもが増えることに伴う妻の心身への気づかい〉〈経産婦の妻の身体を気づかった家事労働〉〈経産婦の妻の身体を気づかった上の子の世話・相手〉〈上の子の親役割調整〉の5カテゴリーが抽出された．経産婦の妻が満足と感じる夫の関わりにおける夫婦の認識について，共通の認識と異なる認識が明らかとなった．**【結　論】** 経産婦の夫婦は，前回の妊娠・出産を踏まえ